

令和3年度 自己評価表

教育方針	「輝く瞳の君であれ」 一人一人の自己実現を目指して	重点目標	「変革と挑戦」 ( Change & Challenge ) □
------	------------------------------	------	----------------------------------

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
	中高一貫教育の推進	校長が、目指す教育理念や運営方針を職員、保護者や地域に明確に説明し、周知を図る。 ○ <u>南予教育事務所管内小学6年生の体験入学参加者数の割合</u> A:8.5%以上 B:8.5%未満～7.5% C:7.5%未満～6.5% D:6.5%未満～5.5% E:5.5%未満	D	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、体験入学会を開催することはできなかったが、学校説明会及びホームページの活用によって教育理念や学校運営方針を周知することができた。 ○学校説明会参加児童数 56名	学校説明会の実施方法について更に検討し、中等教育学校の良さをアピールする。
		1・2年、3・4年、5・6年各ステージの効果的な運営について研究する。 ○前期課程連絡会の実施 年3回 ○教育課程委員会の実施 年3回	B	○各ステージの教育内容、指導方法、及びその連携の在り方についての研究がなされた。	各教科間における情報交換を活性化させる。
学	学校経営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○保護者の交流行事 年5回以上	D	昨年度同様、計画はしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施できない交流行事が多く十分な活動を行うことができなかった。 ○主な交流行事 (PTA総会(紙面開催)、給食試食会、修了式(実施予定)など)	実施できなかった交流行事を企画しながら、人数制限をすることで実施可能な交流行事についても検討する。
校	組織の連携強化	○学年会の実施 月1回 ○教科会の実施 月1回	B	○各学年、教科での情報交換が円滑に行われ、有機的に機能した。	各校務分掌間における情報交換を活性化させる。
運	危機管理の充実・強化	非常変災や事件・事故、感染症などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回。緊急地震速報システムを利用した訓練1回、予告無し訓練1回。	B	目標をほぼ達成できた。訓練時に緊急地震速報システムの不備を発見し、そういう点においても定期的な訓練の必要性を実感した。	今年度の目標と同様、引き続き準備や訓練等を充実させる。
営	教育環境の整備	あいさつや清掃活動が活発に行われるように指導するとともに、校内巡視を徹底する。 ○清掃活動巡視 毎日 ○校内巡視 毎日	C	清掃時の巡視は教員の人員配置不足により、徹底できなかった。	清掃場所担当の配置を工夫し、巡視の徹底ができるように努める。
		校内各所の危険箇所や破損箇所の改修を速やかに行い、生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	B	定期的に点検し、速やかに改修を行い安全対策に努めた。	安全指導・点検の強化と類似しているため、具体的目標の「危険箇所や破損箇所の改修」を「備品整備の充実等」に変更し、引き続き環境整備に努める。
	職場環境の整備	悩みを気軽に相談しあえる職場環境・人間関係づくりに努める。 教職員レクリエーションや、健康講座を企画し、心身のリフレッシュとより良い人間関係作りを努める。 ○ <u>衛生委員会によるメンタルヘルスや福利厚生に関する情報発信 月1回</u>	C	メンタルヘルス出前講座を開催し、心身のリフレッシュを図った。 健康相談室だより、教職員保健だより等で情報発信に努めた。	短時間で簡単にできるストレッチ講座など、教職員がより気軽に参加できるようなスタイルを衛生委員会から提案していく。

評価の段階 ( A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった )

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校運営	学校運営に対する理解と評価	授業公開日や様々な「通信」及びホームページ等を通じて、保護者や地域に学校の状況を適切に伝える。 ○授業(行事)公開日 年間8回 ○授業公開日の参観保護者数 全保護者の50%以上 A:50%以上 B:49~40% C:39~30% D:29~20% E:20%未満 ○ホームページの更新 原則 毎日	C	○行事公開日5回 + 授業公開日3回 年間8回 ○7月参観保護者(1年生授業公開) 63% 11月参観保護者(全学年1日) 23% 2月参観保護者(2年生少年の日) 68% 授業公開全体平均 34%  ○年間を通じて担当を決め、開校日においてはほぼ毎日更新した。	全学年を対象とした1日間の授業公開について、参観保護者数が増えるような工夫を検討して実施する。  ホームページを原則毎日更新することを目標とする。行事予定、部活動の大会結果などをできるだけ早く情報発信できるように努める。
		生徒・保護者及び地域の願いや職員の意見を反映させ、共通理解のもとに組織的な運営を図る。	B	授業公開時のアンケートで保護者の意見・要望について教職員間で情報共有を行った。	アンケート結果をもとに、反映できるものを学校運営に生かす。
学習指導	教科指導の充実	出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 A:60%以上 B:59~55% C:54~50% D:49~45% E:45%未満 ○3か年皆勤率 35%以上 A:35%以上 B:34~30% C:29~25% D:24~20% E:20%未満	C	○1か年皆勤率 51.4% ○3か年皆勤率 29.6%(前期)、34.7%(後期)	登校し、授業に出席することの大切さを生徒に引き続き理解させる。 生徒に対して、体調管理に努めようとする意識の醸成を図る。
		分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。 <u>学校教育評価票(生徒用)による評価</u> A:3.4以上 B:3.3 C:3.2 D:3.1 E:3.0以下	B	各教科において教材の精選・工夫や、学力の向上に向けての取組が見られた。	小テストや課題の充実により、基礎・基本の定着、応用力の更なる伸長を目指す。 授業改善に努め、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に努める。
	家庭学習の充実	適切な課題を与え、漢字検定・英語検定などの資格取得を通じて、目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 1・2年生 120分以上 A:120分以上 B:119~110分 C:109~100分 D:99~90分 E:90分未満 3・4年生 160分以上 A:160分以上 B:159~150分 C:149~140分 D:139~130分 E:130分未満 5・6年生 200分以上 A:200分以上 B:199~190分 C:189~180分 D:179~170分 E:170分未満 <u>一人1台端末を用いた学習支援の充実</u>	B	家庭学習時間については、各学年とも昨年と同様に2・3年生の時間が少ない。3年生の学習に対する意欲の向上について、さらなる工夫が必要である。後期生については、受験に対する取組を早めるような働きかけをしていきたい。 ○家庭学習時間 ( )内は塾での学習時間を含んだ数値 1・2年生 112分 (129分) 3・4年生 130分 (150分) 5・6年生 181分 (214分)  一人1台端末については、使用の回数は増えている。連絡や課題の提出などを行う教員も増えている。	学習時間については、自分で必要な学習をする習慣が大切である。進路の目標設定を含め、早めの意識付けが必要である。
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。	B	指導方針に基づき、教職員が連携した指導ができている。	年度初めの生徒指導職員会をはじめ、学年会や職員会及び職員朝礼などで、教職員間の情報交換をスムーズに行うよう常に周知徹底を図り、今後も連携した指導を行うことができるように努める。
		規範意識の定着を図り、綿密な情報交換に基づいて生徒理解に努める。 ○社会の規範をよく守る生徒 100%	B	教職員間の情報交換に基づき、指導ができた。しかし、問題行動は発生した。 ○問題行動件数 前期2件 後期1件	即時指導を実施し、生徒の規範意識を高める。 学級、クラス、部活動内での人間関係の構築に努める。 各集団において生徒とコミュニケーションを十分とることによって、生徒の状況を把握して早期問題発見に努める。

評価の段階 ( A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった )

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	生活指導の充実	家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために最小限の活動の対応となった。	相談については丁寧な対応を心掛け、さらなる改善に努める。相談によっては専門の機関等を紹介するなど、よりよい方向に進めるような方法を提示できるように努める。
		保護者懇談会や家庭訪問等を実施し、保護者の相談に適切に応じる。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、家庭訪問も最小限にとどめる対応を取った。しかし、不十分な場面もあった。	
	生徒会活動の充実	生徒会各種委員会の活動を通して自主・自律的精神を養い、宇和島南中等教育学校の生徒としての自覚や連帯感を育てる。	B	新型コロナウイルス感染症の影響のため、活動が思うようにできない場面もあったが、それぞれの委員会が工夫をし必要事項を全校に発信した。	生徒会、各種委員会のさらなる活性化に努める。
	部活動の充実	達成感が得られるように部活動の活性化及び能力向上につながる指導方法の工夫を図る。 県総体出場者 前期70人以上 後期160人以上 全国大会出場 体育・文化部含め4部以上	B	新型コロナウイルス感染症のため、活動制限の中で各々が感染対策を講じ最大限の活動を行うことができた。 県総体出場者 前期61人 後期145人 全国大会出場 水泳部 日本文化（囲碁） 日本文化（かるた）	今後も感染対策を徹底しながら、部活動の意義を考えさせ効果的な指導を考える。
進路指導	進学・就職指導の充実	進学・就職に関する研究を深め、生徒の希望と実態に即した適切な指導を行う。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、UG Iの活動が縮小する中で、6年団を中心に行った特別入試の対策では、一定の成果を上げることができた。	学年集会などだけでなく、クラス別に話をするなど、細やかな対応をするよう努める。
		生徒理解のために、学力推移調査や模擬試験などの成績資料を整備し、その活用を図る。 ○大学入学共通テスト受験率 80%以上 A:80%以上 B:79~70% C:69~60% D:59~50% E:50%未満 ○国公立大学合格者 55人以上 A:55人以上 B:54~45人 C:44~35人 D:34~25人 E:25人未満 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 5人以上 A:5人以上 B:4人 C:3人 D:2人 E:1人以下 ○難関私立大学の合格者 30人以上 A:30人以上 B:29~25人 C:24~20人 D:19~15人 E:15人未満	C	○大学入学共通テスト受験率 76.8% (R2年度78%) ○国公立大学合格者 51名 ○難関国立大学と医学部医学科合格者 4名 ○難関私立大学合格者 22名 (結果は3月10日現在)	最後まで受験を諦めない、強い気持ちで持てる指導に努める。
		興味や適性に応じて進路選択ができるよう、適切な情報を提供し、生徒や保護者対象の適切なガイダンスを行う。 ○保護者対象進路説明会 年間1回以上 ○生徒対象進路説明会 各学年2回以上	B	昨年度と同様に多くの計画が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。ただし、6年生の保護者対象説明会は実施することができた。生徒への説明会は、外部業者ではなく、担任から説明してもらうなどの方法に切り替えた。	できるだけ、対面での情報提供が望ましいが、リモートでの方法も選択肢に入れて検討する。
		面接、懇談会等を実施し、生徒・保護者・学校の連携や意識統一を図る。 ○面接回数 5回以上 ○保護者懇談会 2回以上	B	面接や、懇談会は今年度も実施できた。保護者との連携はとることができた。	担任に向けた資料提供などを、さらに増やし、情報発信に努める。
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒の困難さに目を向け、ニーズに合わせた指導や、将来に向けての目標到達を目指した支援ができるように、特別支援教育の体制整備に努める。	C	担任と連携して個別の教育支援計画を作成した。関係する教員が支援の方向性を共有することで、適切な指導につなげた。生徒の特性、支援方法の次年度への確実な引継ぎについて、課題が残った。	担任、学年団と連携し、生徒についての必要な支援を、関係する教員全てが把握できるよう、体制の整備に努める。

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 ○「人権だより」の発行 月1回	B	「人権だより」の発行と、委員会生徒による放送が実施できた。今年度より執筆してもらった先生の似顔絵イラストも入れるなどし、内容の充実にも力を入れた。	保護者からのコメントをもう少し掲載できるよう、ホームページ掲載を含め、保護者への発信に力を入れる。
		いじめ・体罰・セクシュアルハラスメント等に対する意識を高め、気軽に相談できる体制をつくる。 校内外での研修を充実させ、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートの実施 年2回	B	教職員対象の講演会が中止となったが、コロナが落ち着いていた時期に延期して実施するなど柔軟に対応できれば良かった。8月に実施された宇和島市教職員対象研修会は、オンラインでの開催となったおかげで当初の参加予定よりも大幅に参加者が増え、オンライン研修のメリットを感じた。 学校生活をよりよくするアンケートは、12月より教育相談とタイアップし、前期生に関しては月末アンケートでの振り返りを毎月行っている成果からか悩みなどを記入する生徒が減った。年に2回のアンケートではなく、毎月のアンケート結果を踏まえ、学年団を中心に速やかに対応してもらい、いじめ防止・早期発見に努めることができた。	校内講演会の実施をオンライン開催を検討するなど、実施できるよう努め、校外研修への参加も呼びかけながら、その内容を他の教職員と共有できるような場を設ける。 学校生活をよりよくするアンケート並びに毎月の振り返りアンケートでは、友だちの良かった点を書く項目があるが、それらもクラス内で共有するなど、生徒同士の繋がりや人権意識も向上できるよう努める。
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた指導を行い、差別の解消に向けた実践力を養う。地域と連携した活動に積極的に参加する。	B	昨年度よりも評価平均が上昇していたことから、道徳・学級活動・ホームルーム活動は、毎回担任を中心に、各クラスで熱心に取り組んでもらった成果が表れている。 ボランティア活動（子ども食堂や各イベント等）に継続して希望者生徒が参加することができた。	さらに生徒が中心となった活動となるよう、資料等の提供に努める。 地域と連携した活動への継続的参加と、外部との繋がりを作ることを課題とする。
現職教育	教職員の資質向上	学校の現状改善や将来に目を向けた適切なテーマで研修を行い、職員の資質向上を図る。 ○南校ティーチャーズウィーク（相互授業参観）実施 年2回以上	B	ICT活用を中心に、職員研修を実施した。今年度も新型コロナウイルスの再拡大の影響もあり、各研修会にオンラインで参加する機会も増えた。 南校ティーチャーズウィーク（相互授業参観）を6月と11月に実施した。	ICT活用の研修において、授業等での効果的な活用を目指して、より実践的なものになるよう内容の充実にも努める。 各教科、各学年を超えて、相互授業参観ができる機会を作るように努める。
健康・安全指導	心身の健康増進	健康観察、健康相談の充実を図り、健康増進に努める。 定期健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指す。（う歯、視力等） ○「保健だより」の発行・ホームページへの掲載 月1回 感染症対策の充実を図る。	B	コロナ感染症対策を含め、生徒や教職員に向けての健康観察・健康増進の啓発活動为目标どおりに進めることができた。	引き続き、生徒教職員の心身の健康増進のための取組を継続していく。
		各行事、教科等を通じて、食育について周知・啓発を図るとともに、家庭との連携・協力を努める。 「水産の日」「地産地消の日」を設け、地場産業の啓発に努める。 ○食育の日 水産の日 地産地消の日 月1回	B	目標どおりの取組を実施した結果、昨年度以上の評価につながった。	引き続き、食育を通して健康増進や地場産業の啓発に努めていく。
		相談員等と教職員との連携を図り、生徒の変化に速やかに対応できる体制の強化に努め、生徒の相談しやすい環境を整える。	B	担任、学年団、保健室と連携し、生徒、保護者の相談をスクールライフアドバイザー等の相談員につなぐことができた。	12月より毎月行っている学校生活に関するアンケートを継続し、相談の必要な生徒を把握し、早期に対応できるようにする。
	安全指導・点検の強化	交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップ向上に努める。 <u>交通事故発生件数0を目指す。</u>	C	委員会活動、交通指導等から交通マナーアップを呼び掛けた。自転車の登下校について効果が薄い生徒がいた。 交通事故報告 8件	委員会活動、講習会、交通指導等から交通マナーアップを図る。また、巡視等も実施する。
校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。		B	安全点検簿を元に各異常個所の改修を速やかに行った。 点検簿以外でも定期的に校内巡視点検し、安全対策に努めた。	安全点検簿管理は、学期始めを目安に年3回実施が望ましい。（現在、年2回）引き続き定期的な点検を行い、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	全校で朝読書を行うなど生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 A:6冊以上 B:5~4冊 C:3~2冊 D:1冊 E:0冊 ○読書冊数 一人年間17冊以上 A:17冊以上 B:16~14冊 C:13~10冊 D:9~6冊 E:6冊未満	A	年間を通じて、朝読書の時間を確保することができた。図書委員が、毎日、朝読書の様子を記録し、月1回の委員会で状況報告を行った。今年度は前期生で集団読書も実施した。 ○書籍年間貸出冊数 一人 8.4冊（前期11.4冊/後期5.6冊） ○読書冊数 一人18.8冊（前期24.6冊/後期13.1冊） （R4年1月末調査）	登校後、スムーズに朝読書に切り替えられるように、学年、図書委員が中心となって呼びかけ等を行い、積極的に働きかける。 授業においても図書館利用を増やし、読書案内のきっかけにってもらうように努める。
		生徒にとって必要な図書を選定し、利用しやすい図書館運営や環境づくりに努める。  図書館についてより充実した情報発信に努める。 ○「図書館通信みなみ」月1回発行 「図書時報」年1回発行	B	図書委員や後期生を中心に読書案内を作成し、館内に掲示案内をした。また、各教室の背面に各クラスの貸出冊数掲示を貼り、図書館利用の促進に努めた。年1回の校内読書会では、今年もビブリオバトルを実施、全校集会の放送では、図書委員のおすすめの本を紹介するなど情報発信に努めた。 ○「図書館通信みなみ」月1回発行した。 ○「図書時報」年1回(R4年3月)発行した。	できるだけ開館日を設け、開館時間を確保できるようにする。 引き続き図書館からの情報発信に努め、さらなる利用促進に向けて環境を整える。
	情報処理教育及び情報管理	視聴覚機器を整備し、効率的な活用ができるようにする。 <u>ICT機器を用いた学習支援システムを充実させ、授業等で活用する機会を増やす。</u>	B	各教室への電子黒板の配備により、授業や学校行事、会議、研修において積極的に視聴覚機器が利用されるようになった。また、生徒への一人1台端末の配備が整い、連絡事項や課題配布、オンラインセミナーなど様々な活用法を実践することができた。	電子黒板、一人1台端末のより有効な活用方法を研究し、さらに活用できる機会を増やすように努める。
		<u>コンピュータ活用能力を高めるとともに、電子黒板や学習系Wi-Fiの利用方法を研究する。また、生徒一人1台端末の活用に向けて、すべての教員が適切に指導できるようにする。</u> ○情報に関する校内研修会の実施 年3回以上	B	電子黒板の導入、生徒一人1台端末の配備により、今年度はコンピュータ活用のための研修を随時実施した。電子黒板の使い方、マイクロソフト365の概要、Teamsの活用方法などの研修に取り組んだ。 ○情報に関する校内研修会 年4回実施した。	校内における不安定なネット環境の改善を目指し、よりスムーズに配信や受信ができるように努める。また、すべての教員がコンピュータ活用能力を高め、生徒への効果的な指導が実践できるよう、引き続き校内研修を実施する。
		情報セキュリティ意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B	引き続き校務系を活用して重要ファイルを管理することで、情報漏洩の防止に努めた。情報セキュリティ研修も実施した。	重要ファイルの分類等を行い、より一層のセキュリティ維持に努める。
	学校評価	学校改善の取組	組織的・継続的な改善を進める。特に、行事や会議の縮減・簡素化を行うとともに、 <u>部活動休養日の徹底を図り、最低週1回は定時退勤を目指すなど、超過勤務の削減に努める。</u> 信頼される開かれた学校づくりを進める。 教職員個々が目標を掲げて自己評価を行うことを通して、自己研さんに励むとともに、学校への帰属意識を高める。 倫理意識の高い職場づくりを推進するとともに、明るく意欲的に仕事ができる職場環境を整える。	C	教職員間の連携・協力体制の明確化を進め、連絡業務の効率化や会議の縮減・簡素化を実施して超過勤務の削減に努めた。職員朝礼時、紙上連絡等、時間短縮に努めた。 学校HP及びメール連絡網「マチコミ」等によって保護者等への速やかな情報提供を実施するとともに、従来電話で連絡してもらっていた欠席連絡を「マチコミ」で行ってもらうなど、朝の業務縮減に努めた。また、学校紹介・部活動紹介のPR動画をHPに掲載し、地域や保護者に情報を発信した。 目標チャレンジ制度を活用して、教職員一人一人が組織目標を踏まえた個人目標を設定し、自己研さん及び自己評価を行い、次年度への改善方針を検討した。 交通違反の根絶に向けた取組や不祥事防止のための研修を行い、教育公務員としての意識の高揚に努めたが、新型コロナウイルス感染対策のため、教職員間の交流が制限され、連携強化や情報共有の在り方に課題が残った。
講演会や校外研修の実施で、学校生活における充実感や意識向上に努める。			C	新型コロナウイルス感染症下で、対外的な活動が制限される中、オンラインを活用し、リモート講演会や、大学教授によるリモート課題研究指導を組み入れることで、生徒に活動機会を提供できた。また、全国の高校生及び海外の高校や団体とのオンライン交流を生徒に提供したことでより広い視野を身に付けさせることができた。地元でのフィールドワークを積極的に奨励し、地元の方々とのつながりを築けたことで、生徒の取組に対する地元での高い評価が定着した。(講演会5回・課題研究指導4回・国際交流3回・オンライン会議5回・・・全てリモートで実施)	一人1台端末を活用し、ポスターやプレゼンテーションの作成を行うことで、生徒が端末運用能力を高めるとともに、それを使ってUG I 事業での生徒の成果を対外的に発信する場を増やしていく。

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）